

雨の日の楽しみ方

例年より早い梅雨入りでした。桜並木の紫陽花も色づき始めました。

子どもたちには、雨の日は、雨の日の楽しみ方があります。わざわざ、傘をさして園内をお散歩したり、屋根から落ちてくる雨のしずくを眺めてみたり。「洗濯物が乾かないわ。」なんて思うのは大人だけで、子どもにとって雨は嫌なものではないのですね。

普段はあまり遊ばない遊戯室で遊べるのも雨の日の特典。この前は、遊戯室を覗いたら、大型積み木で船をつかって航海に出ていました。年長さんがイメージを合わせてストーリーのある遊びを展開していました。そこに、ちらほら、年中さんも入り、一緒に積み木の船に乗って楽しんでいました。

雨の日と言えば、傘。傘立てにくるくると巻いて挿します。

慣れないうちは時間がかかりますが、他の人のじゃまにならないところで、ゆっくりお子さんに巻かせてあげてください。大人が巻いてしまうのは簡単ですが、幼稚園では自分のことを自分でできるようになることを大事に考えています。コツを教え、見守り、できたらほめていくと、いつかスムーズにできるようになります。

6月行事予定

- 1(火) 夏用制帽着用開始 耳鼻科検診(全学年)
- 3(木) 尿検査(3回目)
- 4(金) 園の誕生日
- 7(月) 通常保育(6日一緒に遊ぼう「夏」中止のため)
- 17(木) 弁当参観(年長)
- 18(金) 歯科検診(全学年)
- 22(火) 管理職養成コース実習(3名)
- 24(木) 弁当参観(年中)
- 29(火) 弁当参観(年少) 幼小中合同避難訓練(不審者)



7/13,14 に予定している
保育参観(任意)は、コロナ
対策として、参観日を1日選
んでいただきます。後日予定
表に記入していただきます。

- ★<参加観察実習> 15(火)21(月)22(火)28(月)は参加観察の実習生が来園します。
1日50名弱の学生が、子どもの様子や教師の援助の仕方を観察します。保育実習ではなく、
観察ですので、子どもとは距離を取っています。また、来園2週間前までの健康チェックを
行います。御理解と御協力をお願いいたします。

先日読んだものの中で、印象に残ったものを紹介します。ちょうど、本園が大事にしていること、保育をするうえで意識していることにぴったり合っていました。

育てよう、非認知能力 ―これからの社会を生き抜くために必須な資質―

香川大学 助教 鈴木裕美

(前略)

「非認知能力」とは意欲や積極性、考える力、やり抜く力、自制心など目には見えない、数値で測ることもできない「生きる力」のことです。レールのない社会では、学歴があれば大丈夫、大企業に就職すれば大丈夫、公務員になれば大丈夫という保証はありません。「非認知能力」を生かして変化に順応し、目の前に進むべき道がないなら自分で創っていくしかありません。

具体的には、自分の興味や関心に従って自主的に探求していこうとする「積極性」が必要です。また、正解が分からない課題に対してどうするべきか考え、とにかくやってみる「行動力」、失敗したらそれを学びに変える「前向き成長思考」、そして諦めずもう一度チャレンジする「やり抜く力」や「自制心」が必要です。

非認知能力は目に見えない力と言いましたが、**存在する場所**は分かっています。非認知能力は、額の後ろに位置する**前頭前野**というところに存在し、脳全体の三割を占めています。(中略)

前頭前野は出生時にはほとんど機能していませんが、親の適切な関わりによって安定した愛着が築かれると、二から三歳位から発達してきます。つまり、幼児期に生まれ、育まれ、成人後も発達し続ける能力です。

非認知能力を育てるには、親の適切な関わりによって築かれる安定した愛着が必要です。なぜなら、安定した土台の上にはしか非認知能力の芽は出てこないからです。

では、**安定した愛着を築くには**どうしたらいいのでしょうか？愛着は子どもが望む三つのことを満たすことで築かれます。それらは、「**愛してほしい(愛情)**」「**見てほしい、聞いてほしい、分かってほしい、困ったら手を差し伸べてほしい(関心)**」「**認めてほしい(前向きな注目)**」の三つです。これらが満たされて、子どもは安心感と信頼感を得ることができ、「自己肯定感」が育ちます。特に「**認めてほしい(前向きな注目)**」は自己肯定感を育む上では重要です。(中略)

子どもは集団生活の中で様々な遊びや体験をし、人との関わりを学ぶ機会を得ます。特に安定した土台と自己肯定感をもった子どもは、豊かな遊びの中で積極的な探索を楽しんだり、課題に試行錯誤しながら取り組んだり、ルールを守りながら自主的に行動したりします。その中で、**一つ一つできることが増えて達成感や幸福感を覚えることで、非認知能力のある前頭前野が活性化します。**

その**メカニズム**は、脳の中央から前頭前野に向かってドーパミンが放射されることで喜びを生み出し、ドーパミンが繰り返し放射されることで脳の報酬神経回路が強化され、前頭前野にある非認知能力が育つのです。例えば、子どもが自主的に遊びを考え、それに没頭することを楽しみ、かつ周囲の大人から励まされたり、ほめられたりすると、たくさんのドーパミンが前頭前野に放射され、そこにある「積極性」や「自主性」、または「創造力」といった能力が発達するわけです。

たとえ失敗したとしても、次にどうすればうまくいくのかを考える機会を与えられ、もう一度トライすることを励まされる、つまり安心して失敗することができるポジティブな環境にいる子どもは、常に大人からの指示に従うようにしつけられ、失敗すると叱られる子どもよりも、ずっと「自主性」や「考える力」といった非認知能力を育てることができ、自立した柔軟性のある人間に育ちます。(後略)